

2023年度ヤマト福祉財団助成金贈呈式  
「障がい者給料増額支援助成金」を全国39事業所に  
**働きがいと自立できる  
高い給料を**



2023年度ヤマト福祉財団助成金  
全国で助成金の贈呈式を行いました

助成先レポートVol.45  
NPO法人はあもにい 就労継続支援 はあもにい(千葉県千葉市緑区)  
今、注目の白いハチミツでコロナ禍の不振を挽回する!

2023年度 ヤマトグループボランティアプロジェクト  
地域と繋がるボランティア 農業編





Profile

2000年に起業。ウェブ・システム開発が専門で、役員2人社員9人のうち役員1人社員8名が障がい者。働きやすい職場づくりを行い、社員の働く意欲と技術力の向上に努めている。認定NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワーク 代表理事、公益財団法人全国障害者雇用事業所協会 専務理事、中小企業家同友会全国協議会 障害者問題委員会 副委員長を務める。2016年、第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞

障がいある人が  
働きやすい  
社会づくりを

私たちは20年以上にわたり障がい者雇用に取り組んできました。さまざまな障がい者の就労現場を見学、情報交換し、身体障がい者にはバリアフリー、知的障がい者には構造化などのノウハウがたくさんある現場を体験しました。しかし、2006年に精神障がい者が雇用率算定の対象に追加され、その雇用が増加していく一方で、精神障がい者が働きやすい現場を作るノウハウの不足が問題となりました。

私たちはシステム開発を行っており、同じくシステム開発の現場で精神障がいを抱える方々と関わるようになりました。2010年からは精神障がいの方々と一緒に働くようになりました。これらの経験や先輩方の意見、支援機関からのアドバイスをもとに、「メンタルヘルスケア、リワーク、精神障がい者のための就労定着支援システム(SPI S)」を開発しました。このシステムは精神障がいのある方々と一緒に働く現場の方々とノウハウ共有を促進するものです。

私たちは、症状の変化や気分のチェック、環境改善など、精神障がい者でも就労しやすい現場を作るためには周囲からのサポートが必要だと実感しました。これらの仕組みを共感してくれる仲間と協力して活動することで、精神障がい者が社会で働く場が広がっていくことを体験してきました。

障がいがあっても社会参加できる、働きやすい環境を作り出す、そんな工夫のできる現場が広がれば、より生きやすく働きやすい社会になるのではないかと考え、同じ志を持つ仲間と一緒に常に考え、活動し続けています。

さらに、SPI Sに加えて、精神障がい者の定着と活躍を支援する「ATARIMABEクラウド」、リワーク専用システム「Welico」を同じような社会づくりを目指す企業と共に開発し、障がいがあっても社会で働くことができる環境づくりを広げたいと活動しています。

将来的には、これらのノウハウを活かし、職場において精神障がいが発症することを予防する取り組みにも注力していくことができればと考えています。

CONTENTS

表紙写真

2021年度の新型コロナ臨時助成金を贈呈した(NPO)法人はあもにいの養蜂場で働く利用者さんとヤマト運輸労働組合千葉支部の伊藤憲一支部執行委員長

- 03 2023年度ヤマト福祉財団助成金贈呈式「障がい者給料増額支援助成金」を全国39事業所に働きがいと自立できる高い給料を
- 08 全国で助成金の贈呈式を行いました
- 10 農福連携実践塾 作りたいたものではなく売れるものを栽培する
- 12 助成先レポートVol.45 NPO法人はあもにい 今、注目の白いハチミツでコロナ禍の不振を挽回する!

- 14 2023年度 ヤマトグループボランティアプロジェクト 地域と繋がるボランティア 農業編
- 16 (社福)ヤマト自立センター 第15回卒業者の集い 私たちが働き続けるために、職員のみなさんの力を
- 17 スワン工舎卒業生訪問37 株式会社ビジネスプラスさま 働きぶりを認める言葉、先輩のアドバイスで、積極的に。
- 18 ヤマトグループの障がい者雇用 現場レポートVol.1 誰もが働きやすい職場を目指して



日本障害フォーラムが推進するイエローボン運動に賛同しています。





「障がい者給料増額支援助成金」を  
全国39事業所に

働きのいと  
自立できると  
高い給料を



新潟県阿賀野市の(NPO)あおぞらの就労継続支援B型事業所「あおぞらソラシード」に「障がい者給料増額支援助成金」を贈呈しました

障がいのある方が、自分に合う仕事を  
を選び、働く喜びを感じながら自  
立して暮らせるように。ヤマト福祉  
財団は、ヤマトグループの寄付や賛  
助会費、労働組合からの夏のカンパ  
を活用し、さまざまな支援を行って  
います。2023年度は、「障がい者  
給料増額支援助成金」として、全国  
39事業所に総額1億1,264万円  
の助成を決定しました。

6月5日には、新潟県阿賀野市の  
(NPO)あおぞらの就労継続支援  
B型事業所「あおぞらソラシード」  
で贈呈式を開催。ヤマト運輸新潟主  
管支店の西田博信主管支店長と、ヤ  
マト運輸労働組合新潟支部の森田  
一男支部執行委員長にも出席いた  
だきました。





## 助成先は… あおぞらソラシード

住所：新潟県阿賀野市畑江75  
形態：就労継続支援B型事業所  
利用者定員：14名  
事業内容：自社製オーガニック化粧品<sup>①</sup>の製造販売、OEM事業  
助成金：445万円(+自己資金50万円)  
使途：電気式減圧蒸留器(中古)の購入費

五頭連峰(新潟県阿賀野市)

### あおぞらのように ボーダーのない社会を

「あおぞらソラシード」がある新潟県阿賀野市は、新潟市内から車で約45分と新潟平野のほぼ真ん中に位置します。南に日本最大級の水量を誇る阿賀野川、東に標高1000メートル級の山々が連なる五頭連峰。有名な清水が七カ所もある自然環境に恵まれた地です。

取材をした6月5日は、施設の名称そのままの美しいあおぞらが晴れ渡っていました。

「あおぞらのようにすっきりと、なんの垣根もないボーダーレスな社会にしていきたい。障がいのあるなしに関わらず、地域で働き暮らすことが当たり前の文化を育てていく。それには働く場所、暮らす場所、遊んだり学んだりする場所を、生まれ育った故郷に作る必要があります」と理事長の本多佳美さんと事務局(前あおぞらソラシード施設長)の石井直明さんは話します。20年前の創設時は、農園や自然養鶏と下請け仕事から開始し、利用者さんの月額給料は、新潟市の施設平均額と同等の3,000円程度。周りも同じようなものだし仕方ないか…。そう思っていた本多さんは、利用者さんのおぼあさんの言葉に激しく心を揺さぶられます。

「障がいがあると言う事で、孫



旧蒸留器



設置されたばかりの減圧蒸留器を試運転

も、私たち家族も、周りから心ないことを言われ、冷たい目で見られていく。悔しくて悔しくて…。と涙されました。障がいのある方や、ご家族はすごく悔しい思いをされたり、辛い思いを抱えて、我慢をしていらつしやる。私たちが本当にやらなくてはいけないのは、施設のなかだけで楽しい。ではなく、地域で支えていくことだと思っただけです。街に出て利用者さんが働いている姿を見てもらおう。と。本多さんたちは、施設外就労に力を入れるとともに、地域に根ざしたいいろいろな事業を創出し、仕事を提供していきます。

現在は、間伐した杉で着火材の製造を行っています。そこで発生するおがくずを有効に活用。五頭山麓に湧き出る名水を使い、杉の良い香りがする自社オリジナルの天然ア

ロマミストやオーガニック化粧品などを製造販売しています。コロナ禍で売上はダウンしたといっても、2022年度の月額平均給料は約3万5,000円と以前の10倍以上です。

### 新しい蒸留器でさまざまな 素材から高品質・大量の 原料とオーガニック化粧品を

施設のハーブ農園では障がいの重い方も働いています。そこで育てたハーブなども材料にミストやバームなどの商品化を進めているのが、あおぞらソラシードです。

「看板商品は、杉のおがくずを蒸留してつくる杉水を原料にした、森のクレアミスト」です。複数の会社とOEM契約を結び、杉水を使った化粧品の製造も行い、売上を伸ばし

てきました」。

しかし、コロナ禍で企業からの注文は次第に減少。仕事量を増やすため見本市などにも参加し、自社商品の販路拡大と同時に、OEM先へ原料を卸す新規事業を成功させるための営業努力を続けています。そこで問題になったのが、経年劣化した「常圧蒸留器」です。

「私たちが使用する機械は、材料から油を搾り取る圧搾機と、杉エキスを抽出する常圧蒸留器の二つです。ところが常圧蒸留器はもう10年以上使ってきたため故障することが多くなってきました。それでも蒸気漏れが発生した箇所に小麦粉を練ったパテで埋め、なんとか使いこなしていたんです。

常圧蒸留器は、蒸留水や精油の収量に限界があり、扱える植物の種類





あおぞらソラシードから歩いて5分ほどのところに、湧き出る天然水「秋取りの清水」を使っています

も限られています。OEM先から、この材料で注文されても対応できないこともあります。そこでいろいろな材料を使うことができ、生産力も約6倍ある「減圧水蒸気蒸留器」の購入を検討したのですが、中古で約450万円もするため簡単に手が出ません」。

減圧水蒸気蒸留器は、タンク内の空気を真空ポンプで抜いて圧力を下げ、40〜60℃で水を沸騰。ガスを使わない電気式なので、夜間の蒸留作業も安全・効率的に行います。しかも常圧蒸留器に比べて香りが良く、さまざまな材料から良質なアロマウォーターや精油を抽出できるのです。

「扱える植物の種類が増えたのでOEM先の新たな依頼にも応えることができます。施設の農園で自然栽培しているラベンダー、ローズマリーなどを使って香水、シャンプー、ボディソープなど新商品の開発も進行中です」。

## 障がい者給料増額支援助成金贈呈式・特別座談会

Roundtable

### 座談会に出席されたみなさま

写真左手前から、ヤマト運輸(株)新潟主管支店 西田博信主管支店長、ヤマト運輸労働組合新潟支部 森田一男支部執行委員長、写真右手前から(NPO)あおぞら 本多佳美理事長、事務局で前あおぞらソラシード施設長の石井直明さん

# 地域の一員として 自立できる支援を



### 不思議な人の縁で始まった オーガニック化粧品事業

本誌 11年前、化粧品の製造・販売をはじめたきっかけを教えてください  
だけですか？

本多佳美理事長(以下、敬称略) 当時は下請け仕事を中心でしたが、東日本大震災で激減してしまいます。これからはなにか自主製品を作っ

て販売しなければと考えていたとき、新潟県が「Special mix」という障がいのある方たちの自立を支援するオリジナルブランドを作る会をつくり、私も参加しました。そこで石井さんたちと出会えたことが、すべてのはじまりです。

石井直明(前あおぞらソラシード施設長、以下、敬称略) 当時私は、廃油石鹸を製造する別の福祉法人で、より付加価値の高い化粧品石鹸を作り、利用者さんの給料増額を目指していたのです。でも、なかなか実現できずにいました。そんなとき、Special mixのネットワークで、奈良の化粧品メーカー(株)クレコスの暮部さんとお会いするチャンスを得たのです。

本多 それを聞いて「私も行っていいですか？」と気軽な気持ちで一緒にさせてもらいました。石井さんのお話が終わり「ところで本多さんはなにをやっているの？」と暮部さんに聞かれ、間伐した杉で木工もやっていると答えました。すると「おがくずを水蒸気蒸留してミストが作れるよ。試しにうちに送ってみたら」と言っていたきました。とにかく新しい仕事のきっかけがほしくて、すぐにお送りすると1週間後に、杉の良い香りのするウォーターが届いたんです。それを嗅いだ当時の理事長が「これはいける！」と即決。早速、暮部さんに「蒸留器を購入





ラベンダーを栽培するハーブ園で、主管支店長、委員長も草取りをお手伝いしました

しますーご指導ください」と連絡しました。

**石井** 私の化粧品石鹸は、許可が降りず断念することになりました。ところが本多さんの話は順調に進み、自社工場も建て事業化していくことに。だったら私も参加したいと転職することにしたのですから、本当に人の出会い、縁って不思議なものです。

### 福祉施設という甘えを捨て消費者を惹き付ける商品へ

**西田博信** 主管支店長(以下、敬称略) 最初から順調に進んだのですか？

**本多** とても大変でした(笑)。化粧品の現場責任者として石井さんを、奈良のクレコスさんの工場に何度も派遣し、商品開発やテスト販売な

ど、ご指導いただきました。

**石井** とにかく化粧品作りのために勉強すべきことが多くて。たとえば表示法、薬機法があることすら、我々はまったく知りませんでしたから。

**本多** 暮部さんに「化粧品を作り、販売するというのはこういうことなんだ」と、一から十まで丁寧に教えていただいたんです。

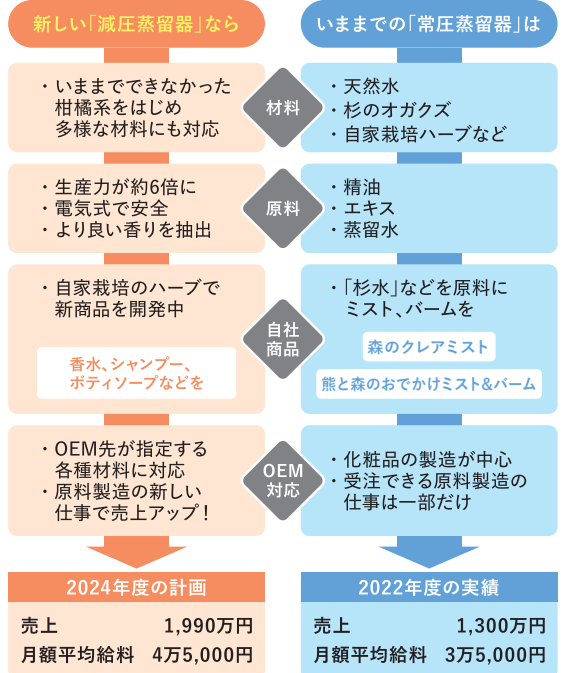
**石井** 企業は、商品の出口があるかどうか、売り方とセットで商品開発をしているのに、我々は作ることに頭にならない。しかもこれならみんなで作れるとか、得意な職員がいるからとか、福祉施設の枠から抜け出せないでいる。そんな甘えから脱却しなければ成功はできないと教わりました。

**森田一男** 支部執行委員長(以下、敬称略) 初めて化粧品を作り、しかも自分たちで売るのは大変だったでしょう？

**本多** はい、なかなか売上に結びつかなくて。そこで暮部さんに紹介いただいた会社とOEM契約を結んだのです。

**石井** OEM先には、蒸留した杉水を入れたミストなどを提供しています。一つの原料で10種類以上のアイテムを依頼される会社もあり、売上は1,800万円くらいに伸びました。さあ、これから自社商品も！と勢い込んでいたとき、コロナ禍で

### 助成で新蒸留器を導入すると



OEMの仕事が激減。2022年度は前年より400万円近くも落ち込んでしまったのです。

**本多** このままではいけないと、あれこれ考えたのですが、答えが見つかりません。暮部さんに相談すると「OEM先から、化粧品だけではなく、原料の製造も受けてみてはどうだろうか」とアドバイスいただきました。原料だけの依頼は受けていませんでしたから、収益を増やすチャンスになると、挑戦することにしたのです。

### 新蒸留器で柑橘系も上手に品質を高め卸価格をアップ

**石井** ところが、常圧蒸留器だと対応できない材料がいくつか出てきたのです。

**本多** 状況を知った暮部さんが「減圧蒸留器にすれば対応幅が広がる」と教えてくれました。これが今回、助成申請させていただいたいきさつです。助成が決まり、OEM先に減圧蒸留器を導入できますと報告すると、まだ機械が届いていないのに、どんどん材料を送ってくるところもあって(笑)。それだけ私たちに期待されているのだと、ありがたく思っています。

**森田** 原料販売を本格的に始動できますね。

**本多** はい、扱える植物の幅を広げられたところが大きいです。特に柑橘系は減圧蒸留器でないと難しく

**石井** 常圧蒸留器だと、柑橘の香りがうまく取れません。何度かやって





ミストやアロマウォーターの原料づくりから、瓶詰め、ラベル貼り、包装まで、利用者さんが活躍しています



間伐した杉のおがくずを集めて着火材を製造するチーム

**森田** 本多理事長は、ここで働いているみんなのお母さんのように見えました。そして、全職員が強い信念を持って働いていることに、とても感銘を受けています。

阪神淡路大震災のあと、宅急便で作った小倉昌男が福祉施設を訪問し、1ヵ月働いても1万円しかもらえない現状を知り、なんとかしたいとセミナーや支援活動を始めました。あれから何十年も経ちますが、我々も小倉昌男の遺志を受け継ぐ一人です。私たち労働組合は、今年も6月から夏のカンパを開始します。昨年を上回る金額を集め、障がいのある方のために頑張るみなさんのフォローを少しでも行っています。



あおぞらソラシードで製造する「森のクレアミスト」、杉やラベンダーなど5種類の香り販売。手前は「熊と森のおでかけバーム」

みましたが、どうしても焦げたような香りになってしまうのです。

**西田** 柑橘類はそのまま使うのですか？ それとも皮だけですか？

**石井** 皮だけです。皮に芳香成分と精油成分とかが含まれているので。

**西田** 先日、三重県でオレンジ生ジュースという商品が流行っていることを知りました。皮は全部捨てているそうだから、それを使えば、持続可能な開発目標とも結びつきますね。

**石井** まさに減圧蒸留器の得意分野だと思えます。現在、県内外の小売業者を招いた製造現場の見学ツアーを企画し、新規OEM先の拡大に力を入れていきますので、そういった点からもアピールしてみます。

**本多** 減圧蒸留器で製造する高品質な原料なら、5〜10%と卸価格をアップできそうです。化粧品事業部として、来年度は1,990万円の売上目標を立てました。新商品開発も進め、5年間で売上3,500万円、平均月額給料は長年の目標である5万円を達成する計画です。

### 利用者さんの自立のために 私たちにできることを

**本誌** 本日は、化粧品だけでなく間伐した杉の着火材製造、さらにハーブ園や生活介護事業所「熊と森の湯」などで働く利用者さんの姿も拝見させていただきました。西田支店長はどんな感想を持たれましたか？

**西田** ここでは、いろいろなやりがいのある仕事を提供する一方で、地

域の一員として認めてもらうための、ゴミ拾い運動など社会貢献活動にも取り組まれています。その上で障がいのある方たちが、自立して暮らせるだけの高い給料をと頑張っている姿に感激しました。私たちにもそのお手伝いがかかってくると感じています。弊社には約22万人の社員がいますから、一人ひとりが本多さんたちの考えをしっかり理解することで、なにかお手伝いができるかもしれない。戻りましたら具体的に検討してみたいと思います。

**本多** ぜひよろしく願っています。

**本誌** 森田委員長はいかがですか？

**森田** 本多理事長は、ここで働いているみんなのお母さんのように見えました。そして、全職員が強い信念を持って働いていることに、とても感銘を受けています。

きたい。そのためにも、今日伺った話を組合員にしっかりと発信しようと思っています。

もう一つ感じたのは、障がいのある方たちが自立していくためには、ただの慈善事業で終わってはいけないということです。

**西田** 地域共生の一環として、私たち企業と福祉と行政のみなさんがともに力を合わせ、事業を進めていくと理想的ですね。

**本多・石井** そのためにも、私たちの活動を地域のみなさんにとつかりと理解、認知いただけるように頑張っています。

**西田・森田** 私たちは、みなさんをずっと応援していきますよ。



全国で助成金の贈呈式を行いました



チャイルドネットジャパン

東北支部



(社福)旭川ねむのき会

北海道支部



BeachSportsProject



(NPO)生活学舎のんき



(社福)青和会



(一社)ULURA

北関東支部



贈呈先9団体・事業所一同

東京支部



(一社)ALTAM

南関東支部



子どものための音楽療法サークル「音の輪」



(社福)光明会





中部支部

(社福)維雅幸育会



(社福)清和会



四国支部

(社福)愛育会



九州支部

(社福)寿康会



北信越支部

(社福)いなりやま福祉会



関西支部

(社福)八身福祉会



中国支部

(社福)あづみの森



(社福)たんぽぽ



第1期 農福連携実践塾 6月23・24日、修了式を開催

# 作りたいたいものではなく 売れるものを栽培する



塾長施設「土水空ファーム」でミニトマトの芽かき作業を研修



コロナ禍を乗り越え、それぞれに成果を上げた塾生と記念の1枚。前列左から林講師、熊田塾長、川田アドバイザー



熊田塾長に感謝の花束を



2年半の成果を発表する塾生

## 農業と六次化の両輪で、利用者さんの給料を増額

初日、全国各地の12名の塾生が福島県郡山市のホテルに集い、2年半の成果を報告。「収穫量と給料を増やすため」と農地を広げた「地域の課題に取り組むこと」で視野が広がった「競争相手の少ない高単価の品目に挑みたい」など、発表しました。

くりのみ園の深掘さんは「少量多品目から作物を絞り込みできるように、さらにネット販売で売上也アツプできました」と報告。六次化で豚まんをヒットさせたわーくす昭和橋の岡本さんは「農業と六次化の両輪でもっと地域を盛り上げたい」と発表しています。また「目標と実際の売上の対比を毎月確認しながら計画的に進めることができた」と話すリーダー格の菜の花の小淵さんは、2022年度月額平均給料を7万6,000円まで高めることに成功しました。

アドバイザーの川田さんは「目に見える数字以外にも、人を育てる、地域とながら“そんな成果を上げることができたことが素晴らしい”と全員の頑張りを評価。講師の林さんも「2年半の実践、実績、実行がこれからの財産になっていくはずです。この仕事に喜びと誇りを持ち、あきらめずに取り組んでください」と話しています。

翌日は、熊田塾長の施設「土水空ファーム」でミニトマトの芽かき作業を研修。熊田塾長は最後に塾生に向けて「みんな立派に成長しました。利用者さんの幸福度は、支援者の考えや行動で決まります。これからはみなさんが中心になり、日本の農福連携を引っ張ってください」と伝えました。

6月23・24日、第1期農福連携実践塾の修了式を開き、コロナ禍で延長した約2年半の研修を終えました。4月からは新たな塾生を迎え、第2期農福連携実践塾がスタートしています。



## 第2期 農福連携実践塾 農作物の品目ごとに、専門家の技術と知識を

福祉施設が農業で成功するには、農作物の品目ごとに専門家たちから、直接実践的な技術とノウハウを学ぶことが効果的です。そこで2023年4月、熊田さんを統括塾長にスタートした第2期農福連携実践塾では、「ぶどう栽培塾(塾生10名)」と「たまねぎ栽培塾(塾生9名)」の2塾を1年間開設することにしました。



### ぶどう栽培塾 栽培手順に沿って 専門家に実作業と座学の両輪で学ぶ

塾長 (NPO)ピアファーム  
理事長 林 博文さん



塾長は、農福連携実践塾の講師(NPO)ピアファームの林さんです。塾生は、福井県あわら市の林さんの農園で、ぶどう栽培をこれから実践研修しました。

4月27・28日の第1回目の研修は「キングデラの花穂成形」です。5月18・19日には「ジベレリン処理と摘芯」、6月15・16日には「摘粒・袋と傘かけ」の作業を体験しました。さらに「工程ごとに専門家による講演会と質問会も開催。」「昨年失敗した理由が研修を受けて理解できた」「研修を受けモチベーションがあがったのですぐ実践したい」と塾生たちは感想を述べています。林さんはピアファームの給料規定についても解説。「必要な資料はいくらでも提供します。業務改善を図り、楽しく農業経営を成功させてほしい」と呼びかけました。



### たまねぎ栽培塾 地域・品種を問わない 絶対的なポイントを知る

塾長 (社福)ゆずりは会 菜の花  
管理者 小淵久徳さん

塾長は、農福連携実践塾で売上成果を上げた群馬県前橋市にある(社福)ゆずりは会菜の花の小淵さんです。

5月24・25日の第1回研修で、塾生たちは菜の花の畑で丸まるど育ったたまねぎを掘り出し、運搬、計量する収穫作業を体験。「収穫の少ない夏場をたまねぎでカバーしたい」「これから農業を始めるのできちんと学び成功させたい」とみんな意欲的です。小淵さんは「地域や品種で方法は異なりますが、共通して守るべき絶対的なポイントがあります。これから種まき、苗づくり、定植などを順に体験していきますので、そこをしっかりと押さえていきましょう」と講義。熊田統括塾長は「給料増額には規模の拡大や機械化も必要です。その点も合わせて学んでください」と伝えました。





# 今、注目の白いハチミツでコロナ禍の不振を挽回する！

特別支援学級に子どもを通わせるお母さんたちの立ち話がきっかけで発足した「はあもにい」。A型事業所としては菓子製造や農業、養蜂業など幅広く展開し、多様性を尊重した誰もが働くことのできる環境の実現を目指しています。新商品の開発で新たな扉を開けようとする様子を伺いました。

## Data

NPO法人はあもにい  
就労継続支援 はあもにい  
千葉県千葉市緑区



取材をした5月は、巣作りが始まり、巣を大きくしていく時期。働き蜂が正六角形の蜜罠を作り、その中に蜜を集める



養蜂箱は、内山緑地建設様の協力を得て、事業所内の「きみつのさんぼ道」に設置している



左が理事で養蜂部長の鈴木一さん、右が理事長の長浜光子さん



ハチの巣箱をバーナーで焦がすのは防腐のため

「できる限り地の物で、天然の甘味を探そううちに、ホームページの写真をお願いしていたカメラマンの紹介で、鈴木さんに連絡を取りました。ハチミツを仕入れさせてほしいと」。養蜂園を営み、後にはあもにい「養蜂部を世話することになる鈴木一さんの返事は「だったら両方やりませんか？」

最初は何を言っているんだろうと思ったと長浜さん。しかし、養蜂が海外では障がい者の自立支援に役買っていると聞くに及び、すぐに鈴木さんの元に見学に。二つして2013年、鈴木さんの養蜂園との共同事業で「はあもにい」養蜂

「就労継続支援「はあもにい」は、このクリミーはちみつを生産するための設備を、2021年度に実施した新型コロナ感染症対応臨時助成金を活用して整備。試験製造の段階を乗り越え、待望の販売へ、目途が立つところまで漕ぎ着きました。

養蜂業に取り組まれた経緯から語ってくださったのは理事長の長浜光子さんです。2008年に放課後デイサービスから始まった「はあもにい」は、4年後に就労の場ともなる「コミュニティ・カフェ」を出店。そこでお店に特徴を持たせようと色々な食材を探します。

「一口含むと、なめらかなクリーム舌触りに、ハチミツ特有のコクのある甘さが広がります。味わいの濃さは一般的なハチミツとは比べものにならない美味しさです。近年、日本でも注目が集まりつつある「クリミーはちみつ」。温度管理をしながら適切に攪拌すると、きめ細かい結晶が均一に広がった白いハチミツができあがります。これがクリミーはちみつです。

—— いっそハチミツづくりから

※新型コロナ臨時助成金として、2021年度に実施





新型コロナウイルス感染症対応臨時助成金で整備した「50Lクリーミング器」。ほぼ全自動でクリーミーはちみつを製造できる



「はあもにい」のオリジナルはちみつ。左からさとのはな(180g ¥1,728)、クリーミーはちみつ(110g ¥1,836)、からずざんしょう(180g ¥1,728)

千葉のはちみつであじわう プリンセスぶりん(80g ¥360)は、キャラメルソースの代わりに、からずざんしょうのハチミツをかけていただく



部がスタートしました。

### 国内1号機をいち早く

以来、「はあもにい」の店舗やオンラインで、天然非加熱の純粋なハチミツを販売するほか、生産者からの依頼で、彼らの作物やフルーツを乾燥させたものと、「はあもにい」のハチミツを原材料としたコンフィチュールなどのOEM相手先ブランド名製造で収益を上げてきました。ちなみに、このOEM事業で活躍しているのが、8年前に当財団の助成を得て導入したフードライヤー。「たくさんお仕事をいただき、機械はいまもフル稼働です」と長浜さん。しかし、新型コロナウイルス感染症と養蜂資材の高騰による打撃は、遥かにそれを上回るものがあつたと言います。

そこで現状を打開すべく、白羽の矢を立てたのが、海外では先行して人気の出ているクリーミーはちみつです。

ポーランドのメーカーが3、4年前に発売した製造器を、専門誌の記事で目にしてきた鈴木さん。とある国内商社がその取り扱いを始めたこと聞きつけたからです。

そして一昨年の10月、国内1号機が、無事「はあもにい」に導入されました。

### 検証を重ねてようやく

すぐに試作に取りかかり、昨年1月から複数の商談会に出品する。

「すごく評判が良くて、すぐにも卸してほしいと引き合いが来ましたが、まだ試作の段階なので待っていただいています」と長浜さん。手応えは十分でしたが、一般販売には慎重を期しました。ハチミツを程よく結晶化させることがクリーム化の肝ですが、配合や温度に大きく影響

を受けるからです。

鈴木さん曰く「冷蔵販売ならもう完成している、販売できる」そうですが、常温で品質を長期間保持できるか――、現在、実際に複数のサンプルを室温で保管して、状態を検証しているところです。とはいえ、順調にいけば正式販売はもうすぐの予定。ひとまず、気温の下がる秋以降を目標にしています。

「取引先の生協さんで、10月からの数カ月間、季節限定で販売する話がようやくまとまりました」と長浜さん。

昨年度は売上が前年3割減で赤字決算になりましたが「これまで給料を下げたことは一度もありません」。平均給料月額が9万円台を達成させました。

「コロナで借入も増えました。でも、自分には言いたいことがあって、環境さえあれば力を発揮できる子たちがいる以上、やっぱり諦めるようなことは、うちにはできません。

ただ収益を出していかないと法人そのものがもう危うくなってしまつというような狭間にずつというのも事実です。」

そう語る長浜さんたちは現在、事業体制の再編にも取り組んでいます。経費がかかるだけに今持つ必要のないものは手放してスリムに、その代わりに必要に応じて外部ときちんと連携するしなやかさを手に入れようと模索中です。

ヒットの予感を放つクリーミーはちみつが、「はあもにい」の挑戦に大きな弾みをつけてくれるに違いありません。

## 労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 40

ヤマト運輸労働組合  
千葉支部執行委員長  
伊藤 憲一さん



### 共生のための後押しをしていくのは我々



今日は取って調べてこちらに伺いました。先入観を持たずに実際のところを確認したいなと思ったからです。結論から言えば、障がいのある方にとって養蜂がいかにマッチしているのか「なるほどな」と感心しました。

また利用者さんたちが魂を込めて物づくりをしている様は、私にとっても見習うべきことで、逆に元気をもらいました。

それだけに夏のカンパも精力的に声がけしていきたいと思ひますし、助成金で購入した機械がどのように活用されているのか、カンパの意義として、しっかりと伝えていかななくてはならないと思ひました。

共生社会の実現に向けて、我々が後押しできることはどんどんしていきたいです。





2023年度

ヤマトグループボランティアプロジェクト

# 地域と繋がるボランティア

## 農業編

財団ではヤマト運輸労働組合と連携し、ヤマトグループがそれぞれの地域の障がい者施設と繋がり、交流を深めていくボランティアプロジェクトを進めています。  
今年度は、農業ボランティアとして自然栽培パーティに参加する鹿児島県、福島県の施設で、収穫のお手伝いをします。

2023年6月10日

## 雨を楽しむ。 どろんこを楽しむ。 パワー全開!鹿児島支部

ワーカーズコープ企業組合労協センター事業団  
国分地域福祉事業所ほのぼの (鹿児島県)



鹿児島空港から車で約1時間、目指すのは霧島市国分湊にある福祉事業所ほのぼのの圃場です。圃場からは錦江湾の向こうに雄大な桜島が煙を・・・の予定でしたが、6月10日、ジャガイモの収穫のボランティア当日は梅雨の真っ只中、それも土砂降り。

鹿児島支部の赤崎支部執行委員長は、「いつも晴れの日ばかりではありません。雨の日だってある。雨を楽しんで、どろんこを楽しんで! 今日の日は何年か経った後にきっと思い出になる」と、作業の合間にも参加者に声をかけています。鹿児島支部はご家族を含めて24人が予定通り、全員参加でこどもたちも元気に収穫を楽しんでいます。

ワーカーズコープほのぼのは、訪問介護、学童保育、放課後等デイサービス、就労継続支援B型などさまざま事業を展開していますが、農業は自然栽培でお米を5.5反、野菜を畑3反で作っていますが、農業1本に事業を絞ることができないため、常に人員不足。「ジャガイモは3月10日に植え付け、芽がでてから人員不足もあり草取りや、芽かきが十分でなく、今年のジャガイモは小さいです」と担当の久木元さん。

みなさんの頑張りで、1.5反に植えられたジャガイモは全部収穫できました! 雨の中お疲れ様でした。秋はサツマイモの収穫予定です。

DATA

ワーカーズコープ企業組合労協センター事業団  
国分地域福祉事業所ほのぼの  
鹿児島県霧島市国分上小川704-1 TEL.0995-47-1093



2023年6月17日

## タマネギの収穫に汗だく！ 餅つきに子どもたちも大喜び！ 郡山支部

社会福祉法人ころん （福島県）



梅雨の合間の晴天、真夏のような太陽が照りつける6月17日、東北新幹線の新白河駅から車で約15分、田園風景が広がる泉崎村のころんファームで、労働組合郡山支部のみなさんとタマネギの収穫を行いました。

ころんファームでは昨年の10月28日から1週間で約4万本のタマネギの苗を植え付けました。苗は、那須おろしといわれる季節風に飛ばされないよう、マルチでしっかり止められ、寒い冬を乗り越え、春になって芽が出て、ようやく6月頃に収穫になります。

今回は、利用者さんと参加者がチームになり、利用者さんの「みなさん頑張りましたよ！」の声で作業をスタートしました。ここでもヤマトパワーにビックリです。なんと約1時間半で、畑の約2/3、約1.5tを収穫し、畑からタマネギを乾燥する貯蔵ハウスに入れるまでを完了。そのうち200kgは郡山支部に届けられます。収穫後は、餅つき大会が行われ、カフェころんやの日替わりおかずと、自然栽培米のおにぎりに、できたてのお餅をほおばり、おなかもいっぱい。

郡山支部の本郷委員長は「農福連携の話は聞いているが、福祉施設でここまで大きく栽培をしていることは知らなかった。今日は良い経験をさせてもらった。これからは農業を辞めていく高齢者も増えていく。この活動を理解して、いろいろな意味で自分たちも貢献していきたい」と挨拶。秋は、タマネギの苗を植え付ける予定です。

DATA

社会福祉法人ころん  
直売・カフェころん、ころんファーム  
福島県西白河郡泉崎村字川畑37-1 TEL.0248-53-5568





# 私たちが働き続けるために、 職員のみなさんの力を

4月22日、ホテルカデンツァ東京(練馬区)に卒業生、来賓、関係者127名をお迎えし、第15回スワン工舎卒業者の集いを開催しました。



一人ひとりに修了書を授与しました



勤続10年表彰者には大きな金メダルも授与されました

歴代の卒業生、ご家族を含めて127名をお迎えしました



卒業生の感謝の言葉に涙ぐむ職員も



1期卒業生の外山敦史さん(写真上)、14期卒業生の及川裕大さん(写真下)

## クロネコヤマトの仲間として

今年で15回目を迎える「卒業者の集い」は(社福)ヤマト自立センターから企業に就職したみなさんを卒業生として表彰し、卒業したみなさんが年一回、一堂に会する機会です。

開会に際して山内理事長は「自立センターに関わった卒業生は、仲間です。困った時はこの仲間がいて、ヤマトグループのク

ロネコヤマトの仲間として、これからも一緒に進んでいきましょう」と挨拶をされました。

今年の新卒者は、スワン工舎新座から13名、スワン工舎羽田から3名、勤続10年表彰は、7名です。自立センターの高橋業務執行理事は新卒者に向けて、「目標があるから頑張れる、勤続10年を目標にしてもええですか」と新卒者に語りかけます。恒例の卒業生インタビューでは、卒業生がステージに上がり、近況の報告やご両親への感謝を伝えました。

## 職員から卒業生へエールを

今年は、スワン工舎職員から卒業生に向けての言葉がありました。

「私たちは年一回、みなさんの元気な顔を、社会人として頑張っている姿を見て、幸せな気持ちでいっぱいです。みなさんがずーっとずーっと、働いていけるように、支援を続けていきます！」。

卒業生を代表してスワン工舎新座卒業生1期生である(株)ヤオコーの外山敦史さんが「1期生の僕たちからスワンがはじまりました。こんなにたくさん卒業生がでてくるのは、素晴らしい指導員の方がいらっしやるからです。良い施設に入れたことを誇りに思っています」。

スワン工舎羽田の卒業生でクボタワークス(株)の及川裕大さんは、「ここまで続けてこられたのは、職員の方々が一人ひとりに寄り添って目標を示してくれたから。この先10年、それ以上働き続けるためにも、職員のみなさんの力が必要です」と感謝を伝えると、会場から大きな拍手が湧き起こりました。



(株)ビジネスプラス/コールセンター業務の受託運営を行う「りらいあコミュニケーションズ」の特例子会社として2002年に設立。新宿のほか、沖縄と北海道にも拠点を構え、休憩室管理や清掃、軽事務作業などで本社業務を補助。現在199名の障がい者を雇用しています。



接客グループのみなさん。中央が岩崎広樹さん

## 働きぶりを認める言葉、先輩のアドバイスで、積極的に。

以前は新たな物事に対して、なかなか積極的になれず投げ出してしまいうこともありましたが、今では臆せず挑戦することに意欲的で、毎日に働きがいを感じています。

■社会福祉法人ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

の事業所の一つで、喫茶コーナーでは親会社の「りらいあ」は親会社りらいあコミュニケーションズ

山手線を眼下に見下ろす南新宿の高層ビルが、岩崎広樹さんの職場です。「お茶の電話を受けることが大変です。聞き取れないときは、『もう一度、お願いします』と言っています」。

2019年から週5日、株式会社ビジネスプラスの南新宿グループが運営する喫茶コーナーで正社員として働いています。

岩崎さんの職場について、新宿南接客グループの川島大幸グループ長に伺いました。

### 企業で働くようになってできることをどんどん増やす



電話のオーダーにも慣れてきました。



オフィスフロアへのデリバリーも。

岩崎 広樹さん 株式会社ビジネスプラス(2019年11月1日入社)

周りの仲間が自分の仕事ぶりをちゃんと見ていて、アドバイスをくれるのがうれしいという岩崎さん。挑戦することへの自信もつき、長くこの仕事を続けることが現在の希望です。



新宿南接客グループグループ長 川島大幸さん

勤務中の眠気にも「顔を洗ってきます」「夜遅い時間は(家で)タブレットを見ないようにします」と、自ら提案したという岩崎さん。入社してとっても積極的になりました。

「岩崎さんを一言で表現すると、思ったことはすぐに行動してくれる方。できたことを褒めるとどんどん良くなって…。あとは先輩社員の仕事をよく観察していて、彼らからのアドバイスも素直に受けとめる、それで成長したと思います」と川島さん。

電車が好きで、休日は「晴れていれば、サンライズとか電車の動画を録りにいったりしています」。岩崎さんの笑顔に、今の生活の充実ぶりが表れていました。

福利厚生の一環として飲料の販売を行っています。岩崎さんには、レジ打ちや簡単な電話対応ですとか、飲料の提供を中心にやっていただいております。

ビジネスプラスでは「結果を求めない」という考え方を大切にしています。失敗を前提にチャレンジを促し、各人が対応できる仕事を探すことを目的にしているからです。

岩崎さんも当初は手先が動かず、エプロンや頭巾を着けるのも一人ではできませんでした。ですが今では、電卓の機能を巧みに操り、自分で時間を計算して出勤簿に記入することも、お手の物に。



# 誰もが働きやすい職場を目指して

前号の特集に引き続き、ヤマトグループで働く障がいのある社員の職場を訪ねました。ご本人に加え、上司や同僚、推進者、相談員の方々にも伺った現場レポートを、シリーズでご紹介していきます。

## 現場ノート

### できることが増えてくると自信もやり甲斐も湧いてくる

中部ゲートウェイベースは、伊勢湾岸道の豊田南IC近く、鉄骨造6階建の巨大な物流ターミナルです。昨年4月からパート社員として働く芝辻さんは19歳。お届け先が不明の荷物をシステム登録する業務などオペレーション全般に関わる事務を担当しています。

肺動脈の血圧がとくに高くなる指定難病を、小学1年生で発症した芝辻さん。以前は車いすを利用していたそうですが、現在は歩けるまで治療の成果が出ています。

推進者として見守る牧崎香織さんは、「1年経って職場にも慣れ、積極性が出てきた。電話対応なども自ら申し出て、業務を増やした」と、向上心に感心するともに、障がい者雇用を一層推進していきたい考えです。ただし、障がい者一人ひとりについて目をかけてくれる同僚社員をいかに増やしていくか、広くてベルトコンベア等のマテハン機器もあるベースの中で、いかに安全を確保し、障がい者と同僚社員が働きやすい環境を整えるかが採用の課題になっていると語ります。

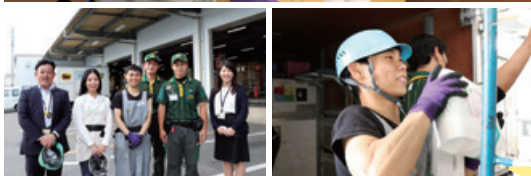


中部ゲートウェイベース | 豊田市生駒町  
芝辻 昌信さん（事務）

自分は立ち仕事や激しい運動ができず、パソコンなどのデスクワークを探していました。誤着荷物の所在やこの先の動きに関する社内からの問い合わせに、電話対応する業務にも今年から関わっているのですが、口頭で説明するのが苦手で勉強中です。早く基本業務が一人でできるようになり、周囲をサポートしていきたいです。

## 現場ノート

### 繁忙期をやりきったときが一番達成感があります



守山小幡営業所 | 名古屋市守山区  
内川 雄貴さん（構内作業）

5月から勤務を1時間伸ばした内川さん。その分、いろいろな仕事に挑戦してもらおうと、伊藤勝也所長は期待を寄せています。

ヘッドタウンながら通販業者様も多く、発送個数が伸びている営業所で、店舗サイズも一般的な営業所の3倍ほど。内川さんはその広い構内を隅々まで清掃するほか、仕分け作業や揚げ荷作業などで、力を発揮しています。

推進者で相談員でもある田巻芳恵さんによると、内川さんはそもそも物流に興味があり、フオークリフト免許も取得していた努力家。養護学校から実習に訪れ、トントン拍子で採用に。昨秋からパート社員になりました。周囲ともしっかり意思疎通が取れ、「ドライバーからも『ウッチー』と呼ばれるほど信頼関係を築いています。ボックス整理や表示札の準備など段取りを考えて、先回りした仕事もできます。ただし、何事にも頑張りすぎてしまうのが玉にキズ。そこだけは所長も注意しています。

筋トレが趣味で毎日1時間ほど、例えばスクワットなら4000回とかしています。僕は自分に負荷をかける仕事が好きなんです、達成感があって。一つひとつの仕事を大事にしていきたいと思っています。マラソン大会に出ることも夢の一つです。

※1【推進者】障がい者雇用推進者。支援学校などとも関係を築いて、障がい者の雇用を推進していく、各主管支店に2名いる社員。 ※2【相談員】JEED認定講習を受け、「障害者職業生活相談員」として選任されている社員が全国に74名。現場での支援と相談の窓口を担う。



## YWF TOPICS

### 認定法人取得の記念イベント開催

認定NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワーク(ESネット)  
4月26日



第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞を受賞された奥脇学さんが代表を務める大阪障害者雇用支援ネットワークが2022年12月に認定NPO法人の認定を取得したことを記念するイベント「これからの障がい者就労の現場について」が大阪エル・シアターにて開催されました。講演会では厚生労働省雇用対策課長の小野寺徳子氏が登壇し、法定雇用率の上昇や雇用代行ビジネスの課題など、昨今関心度の高いテーマが取り上げられました。当日は350名を超える来場者が集まり、障害者雇用促進法の改正後における「これからの現場」について学びを深めました。

### おしごと発見フェア2023連絡会

ゆいジョブ!実行委員会 5月31日



おしごと発見フェア連絡会で各担当が報告



5月31日、沖縄県立博物館・美術館で、第2回目となる「おしごと発見フェア2023」(8月5日(土)開催)に向けて、出展を検討する企業をはじめ、支援学校、支援事業所向けへの説明会を行いました。

昨年は、予想より多くの参加者があり、会場が混雑する場面もありましたが、今年度は、より広い沖縄コンベンションセンター展示棟での開催を決定。「おしごと発見フェア」の特徴は、企業説明会で情報を知り、実際の仕事を体験、就労に関する悩みも相談できるワンストップの仕組みです。今年度は、昨年からの要望が多かった企業の仕事を体験できるように企画しました。それぞれのコーナーのバージョンアップはもちろん、就職や就活に役立つ情報や仕事をする上で役立つ治具などの展示も予定しています。

### 広島エリアで販路拡大研究会がスタート

(社福)平成会 多機能型事業所あさひ  
6月13-14日



多機能型事業所あさひで行われた販路拡大研究会

カカオ豆から板チョコができるまでの全工程(選別、焙煎、摩砕、調合、成形)を一貫管理して製造している自作「Bean to Barあさひチョコレート」。多機能型事業所あさひでは「障がい者事業所でつくる商品」だからではなく、福祉に関わっていない一般の消費者にも広く認知してほしい」と考えていました。

ヤマト福祉財団では新型コロナをきっかけに全国の事業所からこのような声を多く聞き、今年度、(社福)共生シンフォニーの中崎ひとみさんを座長とする販路拡大研究会をスタートしました。まず、多機能型事業所あさひの拠点である広島県を中心に同じ思いを持つ施設のネットワークを広げ、マルシェなどを開催。販路拡大につながる支援を行っていきます。

### ゆいストーリー

ゆいジョブ!イメージソング・プロモーションビデオが完成



#### ゆいストーリー

楽曲制作: ゆいジョブ!実行委員会  
作詞: ゆいジョブ!のゆかいな仲間たち  
作曲: 赤峰徳朗  
編曲・演奏: さわやかバンド

ゆいジョブ!の活動をわかりやすく伝えるためにプロモーションビデオが3月に完成しました。昨年10月から約半年をかけ、ゆいジョブ!実行委員会の事業所職員・利用者さんがみんな参加して、イメージソングの制作、撮影会を行った力作です。

イメージソングは「働くこと」をイメージする言葉を利用者さんから募集し、集まった言葉をキーワードに作詞、三線を入れた曲作りで「ゆいストーリー」が完成。踊りも那覇未来特別支援学校の先生に協力をいただき、手話を取り入れた振り付けです。2月には職員・利用者さん総勢70名がビーチに集まり、さわやかバンドの演奏に合わせて思い思いに歌い、手話ダンスをする素晴らしい撮影会となりました。完成したプロモーションビデオはゆいジョブ!公式サイトでも公開、広報媒体として活用していきます。



# ガウディが後世に託した夢の聖堂、完成への道 ガウディとサグラダ・ファミリア展



サグラダ・ファミリア聖堂内観 © Fundació Junta Constructora del Temple Expiatori de la Sagrada Família



サグラダ・ファミリア聖堂、2023年1月撮影  
© Fundació Junta Constructora del Temple Expiatori de la Sagrada Família



《サグラダ・ファミリア聖堂、全体模型》  
2012-23年、制作：サグラダ・ファミリア聖堂模型室、サグラダ・ファミリア聖堂  
© Fundació Junta Constructora del Temple Expiatori de la Sagrada Família



《ガウディ肖像写真》  
1878年、レウス市博物館

## ガウディが生涯を捧げた壮麗な空間

バルセロナを象徴するサグラダ・ファミリア聖堂。建設の途上にありながらも、そのユニークな姿を一目見ようと世界中から訪問者が絶えません。

長らく「未完の聖堂」と呼ばれてきた同教会の建築をライフワークとしてきたのが、アントニ・ガウディ(1852-1926)です。カサ・ミラやグエル公園、サグラダ・ファミリア聖堂といった見た者に強烈な印象を与える建築群をバルセロナに残しました。

彼はカタルーニャ地方のレウスに生まれ、21歳のときにバルセロナの建築学校に入学します。在学中から著名な建築家の下で働き、研鑽を積みました。

1878年に学校を卒業し、建築家としての資格を得ると精力的に活動を開始。83年には推薦を受けて、前年に起工されたサグラダ・ファミリア聖堂の2代目の設計責任者に就任します。事故で亡くなる73歳まで終生、この仕事のために奔走しました。

## 時代を超越するガウディ建築の魅力に迫る

ガウディの建築思想と創造の源泉を、本展覧会ではサグラダ・ファミリア聖堂の一つの軸に、「歴史」「自然」「幾何学」の3つのポイントから探ります。図面のみならず膨大な数の模型を作成して構想を練ったという彼独自の創作過程や、家具や工芸・彫刻なども広く手がけたガウディの総合芸術志向にも光を当て、聖堂の豊かな世界に触れることのできる企画です。

100点を超える図面、模型、写真、資料に加え、最新技術で撮影された美しい映像も随所に交え、いよいよ完成の時期が視野に収まってきたサグラダ・ファミリア聖堂とガウディの魅力をご紹介します。ヤマト運輸株式会社は本展覧会作品の輸送・展示に協力しています。

### DATA

開催期間 ▶ 2023年6月13日(火)～9月10日(日)

※会期中一部展示替えあり

休館日 ▶ 月曜(ただし7/17は開館)、7/18(火)

開催場所 ▶ 東京国立近代美術館 1F企画展ギャラリー

アクセス ▶ 東京メトロ東西線 竹橋駅(1b出口)より徒歩3分

東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線 九段下駅(4番出口)より徒歩15分

東京メトロ半蔵門線・都営新宿線・三田線 神保町駅

(A1出口)より徒歩15分

開館時間 ▶ 10:00～17:00

※金・土曜は～20:00 ※入館は閉館の30分前まで

観覧料 ▶

一般	大学生	高校生
2,200円	1,200円	700円

(税込)

※障がい者ならびに付添者(1名)は無料

※中学生以下は無料

※学生ならびに各種お手帳をお持ちの方は、いずれも証明できるものをご提示ください

主催 ▶ 東京国立近代美術館、NHK、NHKプロモーション、東京新聞

共同企画 ▶ サグラダ・ファミリア贖罪聖堂建設委員会財団

後援 ▶ スペイン大使館

協賛 ▶ SOMPOホールディングス、DNP日本印刷、YKK AP

協力 ▶ イベルドローラ・リニューアブルズ・ジャパン

学術監修 ▶ 鳥居徳敏(神奈川大学名誉教授)

問い合わせ先 ▶ 050-5541-8600(ハローダイヤル)

展覧会公式サイト ▶ <https://gaudi2023-24.jp/>

巡回情報 ▶ 滋賀会場：佐川美術館

2023年9月30日(土)～12月3日(日)

愛知会場：名古屋美術館

2023年12月19日(火)～2024年3月10日(日)

## 2023年度 障がい者の働く場パワーアップフォーラム 「人は自立して生活することで幸せを感じられる」 「インクルーシブに働きたい」を実現しよう

東京会場リアル開催。「現地からお届けするオンラインフォーラム」として、福井県と福岡県から配信します。今年のパワーアップフォーラムは、各地で取り組まれてきた実践報告やシンポジウムを通して、障がい者と健常者が共に活躍できるインクルーシブな社会のあり方について、考えていきます。

### 参加登録方法

詳しくはヤマト福祉財団のホームページをご覧ください

ヤマト福祉財団

### リアル開催

**東京会場** 9月1日(金) 10:00～16:30

場所：東京都立産業貿易センター浜町町館 4階展示室【北】

**YouTube配信** 現地からお届けするオンラインフォーラム

**福井会場** 9月12日(火) 13:00～16:00

NPO法人ピアファーム

メンバーと共に立ち上げた農福連携実践で工賃向上を目指す

**福岡会場** 9月20日(水) 13:00～16:00

社会福祉法人ハイジ福祉会

地域産業の活性化を図り、地域とともに暮らしていく

